

総務課

被爆者の思いを受け継ぐ

平和啓発セミナー



講演する井上さん

8月5日、庄原市ふれあいセンターで平和啓発セミナーを開催しました。

このセミナーは、原爆や戦争の記憶を伝え、平和の尊さ、戦争の悲惨さを後世に受け継ぐことを目的に、毎年開催しています。

今回は、被爆体験伝承者（※）の井上京子さんを講師に迎え、「被爆体験証言の伝承講話」と題して講演が行われました。

講演では、17歳のときに広島通信局で被爆した細川浩史さんの証言を基に、原爆投下直後の街や人々の様子と、細川さんの妹で原爆の犠牲になった瑤子さんの話が紹介されました。



講演を聞く参加者

井上さんは「戦争は人間を狂わせ、原爆は人間の存在を否定する。伝承者の話を通して、戦争体験者の次世代へ対する思いを語り継ぎ、平和について考えてほしい」と思いを述べました。

参加者は「伝承活動は今後も続けていかなければならないと感じた」「8月6日の意味を改めて考える機会になった」と話していました。

市は今後も、戦争の悲惨さや平和への思いを次世代へ継承していくため、平和啓発を推進していきます。

※被爆者の証言や思いを後世に受け継ぐ活動を行っている人

Camera Report カメラレポート

●市内のイベントやまちの話題をお届けします。行政管理課広報統計係 ☎0824-73-1159 / Fax0824-72-3322



皆様のご支援ありがとうございます

新型コロナウイルス感染症対策寄付金・7/20

No.1

本市地域を管轄する、備北森林組合、西城町森林組合、東城町森林組合、甲奴郡森林組合から、新型コロナウイルス感染症対策の支援として、市に100万円が寄付されました。

備北森林組合の藤原澄人代表理事組合長は「市全体に行き届くよう有効に活用してほしい」と話し、木山耕三市長は、感謝とともに「感染症から市民生活を守る取り組みにおいて、有効に活用させていただく」と、今後の使途について説明しました。

これまでに、多くの市民や企業、団体の方々から、新型コロナウイルス感染症対策に対して、心温まる寄付金や激励のお言葉が届いています。皆さんから寄せられた寄付金は、市が実施するさまざまな感染症対策の財源として、使われる予定です。



▲左から西城町森林組合代表理事組合長 津田幸則さん、木山市長、備北森林組合代表理事組合長 藤原澄人さん、甲奴郡森林組合代表理事組合長 成相彰男さん、東城町森林組合代表理事組合長 板倉一弥さん



川と遊ぼう！

夏期子ども自然教室・8/6

No.6

小奴可の里自治振興区が主催する「夏期子ども自然教室」が開催され、小奴可小学校の児童 41 人が参加しました。

夏空の下に繰り出した子どもたちは、まずはニジマスのつかみ取りに挑戦。お互いにコツを教え合い、たくさんのニジマスを捕まえました。その後、川で泳いだり、生き物を探したりして川遊びを楽しみました。

お昼には、保護者や地域の皆さんが作ったカレーライスと、子どもたちが捕まえ、竹串とささの葉で丁寧に仕上げたニジマスの塩焼きが振る舞われ、子どもたちのお腹を満たしました。食後にはスイカ割りも行われ、子どもたちは小奴可の夏の一日を満喫しました。



▲川を満喫する児童

土砂災害から身を守る

防災教室・7/13

No.8

総領小学校の5年生 11 人が、広島県北部建設事務所庄原支所による、防災教室に参加しました。

防災教室では、映像や資料を見ながら、過去の災害の状況や土砂災害の起こり方、避難する際に気を付けることなどを学びました。また、手作りの模型を用いて砂防ダムづくりや役割の説明がありました。

参加した児童は「砂防ダムが土石流から家を守る様子がよくわかった。今日学んだ事を自分が避難する時に生かしたい」と話していました。

大雨による災害のニュースが続く時期に、防災の必要性を学べるタイムリーな授業となりました。



▲模型を使用した説明の様子

お外でおいしく楽しく

里山プチマルシェ・8/2

No.5

国営備北丘陵公園北エリア内の「里山の駅 庄原ふらり」で、里山プチマルシェが行われました。

このイベントは、市が同エリア一帯を無料開放して実施している社会実験事業の一環として開催され、今回は、市内から4店が出店し、ジェラートやパン、タピオカドリンク、ハンドメイドアクセサリーなどが販売されました。

イベントを訪れた人は「屋外で広々としており、各店舗に新型コロナウイルスの感染防止対策もされているので安心感がある。子どもたちも芝生や屋内遊具で楽しそうに遊んでいたの、また訪れたい」と話していました。



▲食事を楽しむ子どもたち

地域の魅力を発信

はじめてのインスタグラム体験教室・7/29

No.7

口和自治振興センターで「はじめてのインスタグラム体験教室」が開催され、9人が受講しました。

平和印刷株式会社の池上龍之介さんを講師に迎え、地域活動や自然風景といった庄原市の魅力を、SNSを通じて全国に発信する方法について学びました。

今回は、インスタグラムを初めて利用する人向けの初級編ということで、実際に参加者のスマートフォンを使用した操作方法の説明や解説が行われました。

受講者は「体験を交えながらの丁寧な説明で、初心者でも分かりやすかった。今後、このような取り組みが広まり、一人一人が庄原市の魅力を発信することにつながればと思う」と話していました。



▲SNSの利用について学ぶ

安全で安心な明るい社会を築くため

内閣総理大臣メッセージ伝達式・7/16

No.2

「社会を明るくする運動」庄原市推進大会の大会委員長である木山耕三市長に、内閣総理大臣による同運動の推進メッセージが伝達されました。

「社会を明るくする運動」とは、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、安全で安心な明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

例年、同運動の推進大会が開催されていましたが、本年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となったことから、庄原市保護司会と庄原市更生保護女性会の立ち合いのもと、今回の伝達式が行われました。

広島保護観察所長代理の久保和慎企画調整課長から、メッセージの伝達の際「社会を明るくする運動にご理解をいただき、多くの方が本運動に参加いただきますようご協力をお願いします」とお話がありました。

安全で安心な明るい地域社会を築くため、誰もが犯罪や非行からやり直し、活躍できる地域社会となるよう、皆さんも一緒に考えてみませんか。

▶木山市長（前列中央左）、広島保護観察所 久保課長（前列中央右）と庄原地区保護司会、庄原地区更生保護女性会の皆さん



▲内閣総理大臣メッセージ伝達の様子



はっぱを見て触れて楽しむ

第32回吾妻山グリーンラリー・8/8

No.4

比和自然科学博物館公開講座「第32回吾妻山グリーンラリー」が開催され、市内外から22人が参加しました。吾妻山グリーンラリーは、毎年8月8日を「はっぱの日」とし、吾妻山の大自然の中を散策しながら、自然とのふれあいを深めることを目的とした講座です。今回はあいにくの雨模様だったため、急きょ、比和自治振興センターで「ミニグリーンラリー」として行われました。

参加者はまず樹木の特徴や分類の仕方などを学び、その後、あらかじめ決められた箇所に置かれた樹木の種類を調べるクイズに挑戦しながら施設内を巡りました。参加者は、樹木の細部まで真剣な表情で観察し、クイズを楽しんでいました。



▲検索表を使って樹木を調べる参加者

収穫に挑戦

とうもろこし収穫体験・8/6

No.3

西城町油木地区で、西城小学校と美古登小学校の3年生12人が参加し、とうもろこし収穫体験が行われました。

当日は、前油木営農組合の高原芳典組合長から、今回植えたとうもろこしの品種「ゴールドラッシュ88」の特徴や収穫方法のほか、イノシシやモグラなどの害獣対策の説明を受けた後、収穫をしていきました。

子どもたちは、大きく育った茎から実をもぎ取ると、その場で皮をむき豪快にかぶりつきました。「甘い」「ジュースみたい」など、甘みと水分量の多さに驚いていました。また、収穫後には、茹でたとうもろこしが提供され、生とはまた違った甘みや芳醇な香りを楽しみました。



▲とうもろこしをもぎ取る様子